◆診 療 部

診療部長　田辺大朗

前年度に荒川医師が退職されたが、2018年度途中で長島医師が入職され常勤医11名体制となった。呼吸器科、肝臓内科、泌尿器科、代謝内科に加え脳神経内科、心臓血管外科、ペインクリニック外来の非常勤医師による外来診療を新たに加えより専門性の高い診療体制を整備している。循環器科・呼吸器科・消化器科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来の特殊外来を引き続き設けている。2018年度も365日・24時間体制で救急外来を提供し、重症患者は高次医療機関と連携し診療の質の確保に努めている。

救急外来は当院の基本方針にも掲げられており重点的に取り組んでいる。2018年度の傾向として総数は頭打ちとなっている。当院の病床数の減少、病棟区分変更に冬期のインフルエンザの流行、夏期の高齢者の熱中症の増加などの要因で満床となるなど救急患者の受け入れが困難となる期間が増加している。解決策がなかなか見つからず大きな問題となっており、今後改善させていかなければならないと考えている。

地域の高齢化は高い割合で進んでおり、入院患者の軽快した後の退院支援の重要性が増している。地域での生活環境、家族の支援状況、利用可能な介護サービスなどを調査し、希望する退院形態を個々人に提案するように心がけている。また、2018年度から訪問診療を大幅に増やしている。患者や家族の負担を低減できるように、内容なども充実させ、また在宅での看取りも少しずつではあるが行っており在宅医療を拡大させていきたい。

外来化学療法室は落ち着いた環境での化学療法を提供している。近年の抗がん剤治療の進歩は、手術後の治療成績の向上、治癒不能でも延命期間の延長などに大きく貢献している。また、化学療法による副作用は治療の成果に大きく影響する問題であり、当院でも薬剤部にて新規抗がん剤や臨床試験の情報収集に努め、安全に治療を導入するように努めている。

済生会の基本方針としての生活困窮者への生活全般への支援をＭＳＷが中心となり取り組んでいる。2018年度無料低額診療の実施率は6.4%だった。今後も10%を目標に取り組んでいきたい。

研修医の地域医療研修を、2018年度は済生会熊本病院に加え、済生会横浜市南部病院から受け入れた。1ヶ月の研修期間であるが、人口減少、地域高齢化などこの地域の抱える様々な問題や一次救急から在宅医療まで幅広く経験している。特に当院の特色である急性期の治療を終えた患者の在宅復帰へ向けての過程は、済生会熊本病院では経験する機会がなく、研修医にとっても重要な経験であり、将来の地域医療を担っていく出発点になってほしい。